

■発表テーマ	ICTを活用しよう	
■副題	～いつでも、どこでも、すべての人に～	
■法人・事業所名	社会福祉法人 恩賜財団 愛知県同胞援護会 特別養護老人ホーム春緑苑	
■職種・発表者	機能訓練士 堀明博	
介護主任 足立菜月	介護課長 伊藤真人	
<p><取り組んだ課題></p> <p>インターネットによるコミュニケーションツールが世間で一般的となった現代において、当法人においても ICT化が 2018 年度中長期計画に謳われた。</p> <p>記録ツールの大転換において、各現場がどのように導入準備し、活用、応用したのかのプロセスを報告する。他施設も ICT化が進む中、当苑独自の取り組みとその成果を報告し共有する為に事例発表として取り上げた。</p> <p><具体的な取り組み></p> <p>① 導入時の課題の克服→環境整備、教育、マニュアル化 導入のスケジュール管理(ICT 導入計画書作成)</p> <p>② 記録の効率化→・紙ベースからタブレット入力・記録がデータとして可視化</p> <p>③ 記録の携帯→ポケット Wi-Fi を購入し施設外でもタブレットが活用できるように整備。 医師への情報提供が効率的で情報量の増加が実現。(グラフや写真等)</p> <p>④ 記録の転用→介護士と専門職がケアカルテのデータベースで情報を共有。 ケアマネージャーがケアプラン作成時の情報収集の効率化。</p> <p>⑤ 記録の活用→科学的介護の実践(データが根拠のケアの実現) 眠りスキャン活用(各種日誌とアラートの活用)</p> <p>⑥ 記録の応用→アクセスデータの窓口増加により情報取得の機会が増加。 →情報共有の無料アプリ Acrobat Reader DC(アクロバットリーダー)の活用。研修案内の機会増加。</p> <p><活動の成果と評価></p> <p>●顧客満足・職員満足実現●</p> <p>① 導入時の課題の克服 →ICT 導入は年齢・性別・得手不得手関係なく、概ね 2 ヶ月で通常レベルでの操作が可能に。 →ICT 導入計画書に沿ってスケジュールに遅滞なく導入・移行が完了。</p> <p>② 記録の効率化 →業務外記録時間が一日当たり 70%減 ペーパーレス実現 →記録がデータ(グラフ等)になり科学的介護の実践実現。</p> <p>③ 記録の携帯 →医療機関受診前の情報集約が手軽になり、医療機関への情報提供量や種類が増加</p> <p>④ 記録の転用 →ケアプラン作成時の情報量アップし、より対象者の状態やニーズに合ったプラン作成が可能に。</p> <p>⑤ 記録の活用 →介助の数値化で根拠ある介護の実現 【対象者 I 様】 下剤 7 回/月→3 回/月 睡眠の質向上 6 時間 6 分/日→8 時間 36 分/日→眠りスキャンで夜勤の不安感軽減</p> <p>⑥ 記録の応用 →研修参加者数の比較 【2018 年 4 月～10 月】 26 名 【2019 年 4 月～10 月】 43 名へ増加。</p> <p><今後の課題></p> <p>2021 年度介護報酬改定に応じた記録へのシフトチェンジで介護現場の革新を一層推進する。</p> <p>記録への意識がケアの質を向上させるような動機付けが求められる。また機能の有効活用とカスタマイズで一層働きやすい環境作りに取り組む。</p>		